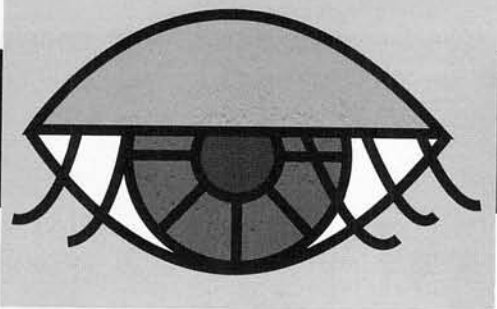


# FAME Report



京都ノソキ見トピックス

## 京都ファッション・シーン に風穴を空ける。

“ATTITUDE MAKES STYLE”をテーマに、『SPINNS』が  
オープンした。今、ニューフェイス・アーティスト達の視線は熱い。

取材・文/廣田真弓  
写真/HARRY'S EYE



ファッション・フィールドとしての京都、イコール「閉鎖的」といわれている。だが、この状況を打ち破るべき若いクリエイターが、自分達なりのモードを商品として我々に提供できる場所というのは、一体どれだけあるだろうか。そこで、ある1つのショップが名乗りをあげ、プロデュース機能の可能性を広げ、新進気鋭のアーティストをバックアップするという動きがあった。新京極ダイヤモンドビルにオープンした「SPINNS」がそうだ。新人を起用した2つのオリジナルブランドを置き、アーティスト達のために店を開放、様々なイベントのコーディネートまでも手掛けるというものである。去る8月31日に行なわれたオープニング・パーティーでは、多数のモデル業界人や常連客のグループ、またデザイナーやアーティストなど、とにかくファッションが面白くてしょうがない、という顔ぶれが集まった。「ストリートアーティストの根拠として場を提供するから、もっと外に目を向けてほしい」と語るのは店長の内かど氏。「半年に1回開催するショーのコーディネートを通じて、デザイナーやヘアメイク、サウンド等のアーティストをバックアップする、トータルな場所にしていこうと思っています。アヴァンギャルドなテイストを持つ人であれば売り込みもOK。また絵やオブジェなどに展示するだけだっている」と、新人発掘には意欲を見せている。オリジナルブランド「CHINE」の勝嶋和世さん(唯一の専属デザイナー、21才)は「SPINNS」のいい点は、1つのスタイルだけにこだわらないところ。

参加デザイナーも「ちゃんこ鍋」的だから、これからはパワーのある人が気軽に集まる場所であって欲しい」。彼女は、着る人のパーソナリティを重視したレディスものを展開していくという。かたや「ROUNDAABOUT」のほうは、ユーズド・クロージングのリメイク。「ショップスタッフがいっしょで面白いものを創る。店頭に置くのはその時々で、1〜10点くらいです」とは、企画制作者の一人、藤原さんだ。何着ものパーツを再構成するなど、予想もつかない組合せがユニークである。またショップでは、ハジメカズヒコ主宰のアート集団「SYMBIOSIS」によるアート「商品」の販売も行なっている。いずれもカテゴリーにとられない発想が魅力だ。

他にはGデザイナーのオリジナルTシャツを取り扱い、会場にはイラストレーター、東元光児氏の姿も見えていた。この日、サウンド演出をしたのはDJユニット「サウンド・インポシブル」である。彼らは2〜3カ月に1回、「SPINNS NIGHT」としてDJイベントを行なう予定だ。参加者は、スクリーンに映し出されるSPINNSオリジナルイメージビデオをジョイントした音を楽しんでいた。新しい波が起こるときには、そこに何か特有の熱気が存在するものである。大盛況に幕を閉じたこのパーティーは、「気鋭のストリート・アーティストにコミュニケーションが生まれるようにしたい」という、彼らショップの情熱が十二分に伝わってきたものであった。